

広い世界へと翔び立つ君へ ～OBからのエール～

執筆者 K. N

執筆者プロフィール

建築業・現場作業員など（～平成20年4月）
松ヨビ EXPO コース 入校（平成20年5月）
高卒認定 合格（平成20年8月）
松ヨビ 大学受験クラス 入校（平成21年4月）
明治大学・法学部 入学（平成22年4月）
明治大学・法学部 卒業（平成26年3月）
慶應義塾大学大学院・法務研究科 入学（平成26年4月）
司法試験予備試験 合格（平成27年11月）
慶應義塾大学大学院・法務研究科 修了（平成28年3月）
司法試験 合格（平成28年9月）
司法修習生（平成28年11月）
弁護士（平成29年12月）

広い世界へと翔び立つ君へ ～OBからのエール～

1 ご挨拶

こんにちは！

EXPOコース（高卒認定クラス）出身者のK. Nです。

“母校”であるEXPOコースで頑張っている皆さんへ、OBとして応援がしたくて筆をとらせていただきました。

僕の当時の合格体験記を書きつつ、ひととおりの受験を終えた者として、皆さんのこの先にあるものについて書いてみたいと思います。

2 ギリギリの高卒認定

高卒認定に受かるためには、1科目40点程度とれば良い。

このことを知った僕は、「40点で良いなら、鉛筆をころがして出た数字をマークすれば受かるっしょ！」と、心の中でガッツポーズをしました。

だが、現実は甘くなかった。鉛筆を何回ころがしても16点以上とれない…。ダメだ、きちんと勉強するしかない…。

こうして勉強を始めたわけですが、初めのころは、朝まで遊んで授業をサボってしまったこともありました。このことが家族にバレて絶望されたときに、僕は「このままじゃ本当にダメだ…」と猛反省をしました。

その後は、マジメに授業を受けて、ドリルを解いたりすることを続けました。そして、サボらずにコツコツと勉強を続けていたら、ちょっとずつ点がとれるようになっていきました。

最初に合格点を越えたのは数学でした。数学は、中3までの公式を丸暗記して、ひたすらドリルを解けば、毎回40点以上とれるようになります。

その後、数学はそれ以上やらずに他の科目を勉強しました。「合格点に達した科目はもう終わりにして、他の科目をやる」というのは、いまでも正しかったと思います。

最後までボコボコにされたのは、英語でした。むずかしいところはあきらめて、とにかく簡単に点をとれそうなところを勉強するようにしました。

そうこうしているうちに、1回目の受験日(8月)が来てしまいました。

英語だけは間に合わなかったので、2回目の受験(11月)で合格すれば良いやと思いながらテストを受けました。

ところが、奇跡が起きてしまったのです。

英語のむずかしい問題(1問4点)のところで鉛筆をころがしたら当たってしまい、このラッキーの4点を合わせて合格してしまったのです。

「喜んでいいのかよく分からないけど、嬉しい!!」

こうして、最後は運も味方して、僕の高卒認定は、(予定よりも3ヶ月はやく)幕を閉じました。

のちに、成績証明書をみたのですが、優秀な成績ではありませんでした。A~C評価のうち、59点以下を意味する「C」が多かったです。「A」はひとつもありませんでした。英語は、自己採点で38点。ラッキーの4点がなければ落ちていたと思います。超ギリギリです。

また、「勉強をすること」それ自体も、初めのころはできませんでした。

つまり、僕は優等生ではなかった。それでも、合格は合格です。

優等生でなくても、コツコツと勉強を続けていけば、必ず合格できます。

40点で良いんです。むずかしいところは無視して、できるところからやってみてください。

面白いなって思えるところだけでも良いです。初めのころは、ちゃんと授業を受けて勉強をするという“習慣”をつけることが何よりも大事です。

続けていれば、絶対に合格できます。大丈夫!

つまずいたら先生に相談しながら、とにかく続けてください!

「継続は力なり」です!

3 勉強の鬼と化した大学受験

高卒認定に合格した後は、大学に進学するための勉強を始めました。

ちょうどその頃、兄から大学受験の話を知りました。僕の兄は、美須々高校の学年ビリから、1年間、松ヨビで猛勉強(浪人)をして、レベルの高い大学に進学しました。いわゆるビリ〇〇ってやつです。

その兄に、大学受験の話を知ったら、目からウロコな事実が発覚しました。

「毎日、14時間以上勉強していた。」

は？ 耳を疑いました。14時間以上といたら朝から晩まで勉強です。

テレビは？ 彼女とのデートは？

もちろんありません。勉強です。“俺たちには勉強しかない”が服を着て歩いているのです。

当時の僕は、「テスト勉強＝一夜漬け（一晩だけ）」としか思っていなかったもので、死にもの狂いで“毎日”一夜漬けのような勉強をした人の話は、本当に目からウロコでした。

でも、当時の僕は、夢中になれる“何か”が欲しかった。そのためか、「大学受験とは、そういうものなのか。知らなかったなあ。俺もやってやるぜ！」と、かえってヤル気がわき上がってきたのです。

それからは、持ち前のド根性で「兄超え」をしてやると意気込んで、毎日16時間勉強しました。

朝4時半に起きて8時まで勉強。9時から20時まで松ヨビで勉強。家に帰ってから23時半まで勉強。通学中に単語帳をめくって、通学の往復2時間も勉強。ご飯を食べているときももちろん勉強。昼寝の時間などを抜けば、だいたい16時間です。

これを週7で続けます。土日も勉強です。遊びもテレビも彼女もない。“俺たちには勉強しかない”の仲間入りです。

この生活を始めて、半年くらいでしょうか。爆発的に成績が伸びました。当然です。週7でアホみたいに勉強しているのですから。誰だって伸びます。

勢いだけで突っ走ること1年弱、第2志望の大学の門までたどり着きました。

「やりきった！」。大学に合格したことよりも、その達成感の方がはるかに嬉しかったです。

勉強の鬼と化した大学受験は、心からの充実感と生きている実感を感じさせてくれました。

そして、このときの「やりきった！」という経験と自信が、その後の勝利へとつながっていきました。

「常識にとらわれない」ことは、EXPOコース上がりの“強み”です。

EXPOコースから大学を目指すならば、日本で一番むずかしい大学を目指してください。

僕は、私立大学で一番むずかしい早稲田・慶應を目指しました。結果的に落ちたけど、高い目標に向かって走り続けたことで、本当にイキイキとした楽しい時間を過ごすことができました。また、何よりも、たった1年弱のこの経験が、その後の未来をきりひらく力と自信を与えてくれました。

次は、皆さんの番です。

皆さんは、とんでもない可能性を持っています。ちょっとしたきっかけがあれば、それが開花します。ですので、「こういう道もある」という一例を示しました。

世界は広く、歴史は変わる。EXPOコースから東大合格者もでるでしょう。

他の誰でもない、君がその栄冠をつかんでほしい。君にはその力がある。そのときは、朝までお祝いしますよ。笑

4 ダイヤモンドの原石たちへ

「いつか人生をふり返った時に、『ああ、あのとき死ぬほど勉強したなあ』と笑える期間があっても良いじゃないか。」

僕が勉強を始めるきっかけになった言葉です。

夢中になれる“何か”が欲しかった。そんな自分にこの言葉をかけてくれた人がいて、“たまたま”この勉強の道に入ってきました。勉強を始めたきっかけは、本当に偶然でした。

きっと皆さんも、それぞれのきっかけがあって、いまこの道にいるのだと思います。でも何かの縁があってこの道にいる。それだけは確かです。

皆さんのこの先に待っているものは何か。

それは、“可能性”です。

皆さんには、可能性しかない。可能性のかたまりです。

何者にでもなれる。どんな人生だって歩むことができる。

そのための一歩を踏み出そうとしているのです。

きっかけは何でも良い。縁あって歩みだした道を思いっきり走り抜くことで、未来を切りひらく力と自信がつきます。

長い人生の中に、「ああ、あのとき死ぬほど勉強したなあ」と笑える、ほんの小さな1コマがあっても良いのではないのでしょうか。

EXPOコースからまたひとり、広い世界へと翔び立つ君に希望をこめて、筆をおきたいと思えます。

君ならできる！頑張れ！！